

全国視能訓練士学校協会

平成 23 年度教員研修会報告書

平成 24 年 3 月

平成 23 年度教員研修ワーキンググループ

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に、かつてない規模の大地震が日本を襲いました。犠牲になられた方々へ追悼の意を表します。また被災されました関係者の方々にお見舞い申し上げます。震災から約半年が経った 8 月、4 回目となる教員研修会を開催しました。

この教員研修会は、教員の資質向上と教育的指導内容の充実を図ることを目的としていることから、初回から教育講演を行っています。第 1 回は教育全般の展望、第 2 回は現代の学生の状況（心理）、第 3 回は教育スキルの向上を目的として PBL テュートリアル基礎を学び、それを踏まえ今回の第 4 回は、学生の「自己肯定感」を育成するパーソナルポートフォリオを学ぶこととし、岩堀美雪先生にご講演いただきました。

初回から取り入れてきたグループワークは、研修会後に行うアンケートでも好評である授業案（コマシラバス）の作成とし、①検影法（初回講義）と②大型弱視鏡（初回実習）の 2 つをテーマとしました。それぞれのテーマで各 3 グループが授業案の作成、プレゼンテーションを行いました。全グループのプレゼンテーション終了後には、テーマ毎に最終ディスカッションをしたことで、他施設の先生方からの意見も聞くことができ、より理解を深めることができたのではないのでしょうか。

また、昨年から行っている賛助会員のセミナーでは、クーパービジョン・ジャパン株式会社様によるセミナーを行いました。器械展示には、株式会社ティエムアイ様、HOYA 株式会社様、ジャパンフォーカス株式会社様の 3 社から出展いただきました。

以上、ここに第 4 回教員研修会の報告をさせていただきます。

平成 24 年 3 月吉日

平成 23 年度教員研修ワーキンググループ

代表 松井康樹（平成医療専門学院）

佐方暢子（大分視能訓練士専門学校）

小林泰子（川崎医療福祉大学）

横田敏子（大阪医療福祉専門学校）

目 次

研修日程	-----	1
教育講演		
資 料	-----	3
講師略歴	-----	5
グループワーク		
学習指導案フォーマット	-----	7
「テーマ1」学習指導案・発表資料		
A	-----	8
C	-----	11
E	-----	13
「テーマ2」学習指導案・発表資料		
B	-----	16
D	-----	19
F	-----	21
最終ディスカッション	-----	24
賛助会員協賛企画	-----	27
研修風景（写真）	-----	30
アンケート		
フォーマット	-----	35
アンケート結果	-----	37
意見・感想	-----	42
アンケート単純集計	-----	49
会長総評	-----	51
編集後記	-----	53
加盟校一覧	-----	55

平成 23 年度 全国視能訓練士学校協会

第 4 回教員研修 プログラム

- 目的
1. 視能訓練士養成施設の教育レベルの向上、専門課程の教育指導法の共有化、養成校教員の個々の指導スキルの向上
 2. 第 4 回の研修では、自己肯定感や自尊感情の育て方について学ぶ。

受講対象者	全国視能訓練士学校協会 専任教員	
開催日時	平成 23 年 8 月 25 日（木）～8 月 26 日（金）	
研修会場	大阪医療福祉専門学校	
研修テーマ	テーマ 1. 検影法(初回講義) テーマ 2. 大型弱視鏡（初回実習） 具体的な授業教案(コマシラバス)をグループで作成し PowerPoint にてプレゼンテーションする	
教育講演	講演：「パーソナルポートフォリオを使った実践を通して」 講師：岩堀 美雪先生 （福井県鯖江市 立待小学校教諭）	
8 月 25 日（木）	12:30	受付開始
	13:00	初日研修開始
	13:00～13:10（10 分）	概略説明
	13:10～16:10（180 分）	教育講演（講師：岩堀美雪先生）
	16:10～16:20（10 分）	会場転換及び休憩
	16:20～16:30（10 分）	コマシラバス作成レクチャー
	16:30～19:20（170 分）	グループワーク：コマシラバス作成
	19:20～19:40（20 分）	会場転換及び休憩
	19:40～	懇親会
	21:00	中締め
	21:30	第 1 日目終了
8 月 26 日（金）	9:00	開場
	9:15	2 日目研修開始
	9:15～13:00（225 分）	グループワークの報告・ディスカッション
	13:00～13:10（10 分）	会場転換及び休憩
	13:10～14:00（50 分）	賛助会員セミナー
		クーパービジョン（コンタクトレンズ基礎講座）
	14:00～14:10（10 分）	研修総括・修了証授与、写真撮影
	14:10～14:30（20 分）	研修終了、振り返りシート、研修後アンケート記載

教育講演

教育講演「パーソナルポートフォリオを使った実践を通して」

岩堀 美雪 先生

福井県鯖江市立待小学校教諭の岩堀美雪先生をお招きしてご講演いただいた。

岩堀先生は子どもたちの自己肯定感を育むために、2000年からパーソナルポートフォリオを用いた独自の方法を実践されている。今回の研修会では、岩堀先生が10年前のパーソナルポートフォリオとの出会いから現在に至るまでの経験談、NHKで放送された番組ビデオを交えてのご講演、そして、短い時間の中で内容をぎゅっと短縮してのポートフォリオの実践までを体験させて頂いた。以下にパーソナルポートフォリオの実践についてまとめた。

準備物

各個人の写真 1枚、クリアファイル A4 1冊、ファイルに入れる A4 の用紙、ペン、付箋、かわいい便せん等

進め方

1. 入室前に各自写真撮影

2. グループ分け

今回は初対面の先生方が多かったため、地域が近い方が話しやすいのではとの先生のお考えで、学校地域別のグループを編成。1グループ4から6名ほどのグループだった。

3. グループ内で会話

あらかじめ作成された数枚のカードの中から1枚をひき、そのカードに書かれた内容（例えば“自慢できること”、“うれしかったこと”、“驚いたこと”など）についてグループ内で会話をを行った。

4. 表紙の作成 ここから実際のポートフォリオの作成となる。

まず、ファイルに好きな名前を付け、表紙を作る。（今回は説明のみ）

point 1. 表紙にはそのファイルが何冊目なのかが分かるよう、数字を書き入れる。

今回は第1冊目ということで、その表紙に「1」と書き入れた。

point 2. クリアファイルにしているのは自分の作成した表紙が見えるようにするため。

5. 2ページ目

新しい用紙の上に日付を書き（ページ毎に作成した日付を記載）、パーソナルポートフォリオの軸となる言葉“自分のことを好きになろう”、“家族や友達のこと大好きになろう”

と書いたら、表紙と背合わせでファイルに入れる。

6. 3 ページ目

自分の写真（1で撮影した写真）を貼り付け、下に「自分の夢や願い」を箇条書きにして、思いついただけ書く。

7. 4 ページ目

「自分の長所」を箇条書きにする。人と比べないで、ささやかなことでも思いついたことを思いつくままに書き出す。そして、先ほどの「夢や願い」の用紙と、「長所」の用紙を背合わせにして2つめのポケットに入れる。

8. 5 ページ目

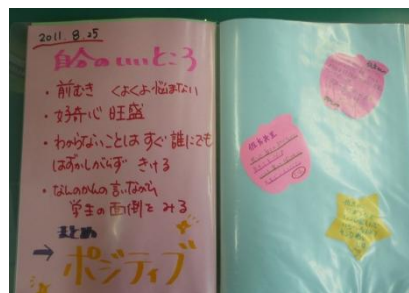
次のポケットからは自分で用意した自分の好きなもの、大切な物、元気が出るものなどを入れていく。今回はグループメンバーそれぞれの良いところを見つけ、付箋紙に相手の良いところを書いて渡し、その書かれた付箋紙を A4 用紙に貼り付けた。

2 ページ

3 ページ

4 ページ

5 ページ



以上が今回体験したパーソナルポートフォリオの作成である。

講演会の最後には、岩堀先生が活動を通して生まれた「思い」を詞にされ、その詞に作曲者のくまひげ氏が歌にした中から「母の歌」をくまひげ氏のギターをバックに披露していただいた。

岩堀美雪先生 Profile

福井県鯖江市在住。小学校教師。

子どもたちの「自己肯定感」を育むために、2000年からパーソナルポートフォリオを使用した独自の方法を実践。その模様は、地元NHKで二度にわたってドキュメンタリー番組が組まれる(北陸スペシャル「ファイルで見つける自分の長所」25分番組、福井夏季特集「自分大好き 友達大好き～服間小5年生の宝物～30分番組)など、簡単なのに効果抜群な手法が話題となり、全国の会社や一般の方からも講演の依頼が相次いでいる。その後、一人でも多くの人に実践してほしいとの思いから、自費出版にて著書「心がぐん！と育つパーソナルポートフォリオ」(東洋館出版社)を刊行。自費出版では異例の「3000部」が完売したことや、全国で14000人以上に講演してきた実績を買われて、2009年12月には2冊目の著書「ポートフォリオで「できる自分」になる！」が刊行される。さらに、2011年2月には、NHK教育テレビ「となりの子育て」(全国版)でも紹介される。

近年は、その活動から生まれた「思い」を歌詞にする一方で、作曲者のくまひげ氏とユニット「nico nico nice (ニコニコナイス)」を組み、現代人が忘れがちな「愛」や「感謝の心」を歌声にのせて人々に伝えている。「大人も子供も、自分を認め、お互いを認め合う世の中にしたい」と本気で考えている、日本有数の熱血教師。



グループワーク

研修テーマ	(教案フォーマット)				
グループ		人数		教員歴	

学習指導案(コマシラバス)

科目名		講師名		日/時間	90 分 ×
対象学生		人数		授業形態	
科目目標		講義目標		準備物	
講義内容					
時間/段階	指導内容・指導方法			留意点	
導入 (分)					
展開 (分)					
まとめ (分)					

研修テーマ	検影法 初回講義				
グループ	A	人数	5	教員歴	1年～4年

学習指導案(コマシラバス)

科目名	生理光学	講師名		日/時間	90 分 × 1
対象学生	2年生前期	人数	35人	授業形態	講義
科目目標		講義目標		準備物	
原理・方法を理解する		原理を理解する		視能学 目で見る 視力・屈折検査の進め方 レチノスコープ	
講義内容					
時間/段階	指導内容・指導方法			留意点	
導入 (20分)	屈折の種類の復習 他覚的屈折検査の復習 (指導方法)黒板に図を描きながら、学生をあてて答えさせる			メリット・デメリット	
展開 (60 分)	目的→検影法の紹介(重要性) 原理→遠点と共役点の関係復習 (指導方法)図を描く			遠点の復習	
まとめ (10 分)	講義の振り返り (指導方法)学生をあてながら答えさせる			ポイントを押さえて復習	

検影法の初回講義



グループ: **A**

人数: **5人**

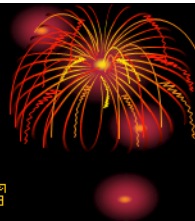
教員暦: **1～4年**

学習指導案



- 科目名: 生理光学
- 時間: **90分**
- 対象: **2年前期**
- 人数: **35人**
- 授業形態: 講義(板書と穴あきプリント)

導入(20分)



- 屈折の種類の復習
- 他覚的屈折検査の種類の復習

導入



- 屈折の種類の復習
正視・遠視・近視・乱視

→黒板に眼球の図を書き、焦点の位置や定義を答えさせる。

導入



- 他覚的屈折検査の種類の復習

→学生に考えさせ、オートレフラクトメーターという答えを引き出す。

→オートレフラクトメーターのメリットとデメリットを答えさせる。

オートレフラクトメーターの メリット・デメリット(例)



★メリット

- 簡易である
- 習熟を必要としない

★デメリット

- ・顎台に顎が乗せられないと検査ができない
- ・屈折値の正確さに欠ける
(中間透光体の混濁、円錐角膜などの疾患、
器械近視の混入など)
- ・器機が大がかりで持ち運びが困難
- ・値段が高い

展開(60分)

- ・ 目的
- ・ 対象
- ・ 原理

展開

- ・ 目的
検影法の紹介

→眼前から瞳孔縁に投入した光の、網膜で
反射された反射光と影の動きを観察して、
被検眼の屈折状態を判断する。

展開

- ・ 対象
眼底反射の得られる被検者
→顎台にのせられない乳幼児や発達障害児

検影法のメリット
オートレフラクトメーターでのデメリットがない

※習熟が必要なのがただひとつの欠点

展開

- ・ 原理
眼の遠点と網膜中心窩とは共役の関係
→遠点の復習と計算をする。
- 屈折状態で中和、同行、逆行の見え方の説明。

まとめ

- ・ 今日した内容を学生に当てながら復習する。

研修テーマ		検影法の初回講義						
グループ		C	人数	6		教員歴	0～10年	
学習指導案(コマシラバス)								
科目名	検査学		講師名			日/時間	90分×1コマ	
対象学生	2年次 前期		人数	30		授業形態	演習形態	
科目目標			講義目標			準備物		
検査の目的、原理、検査方法とその評価法について理解する			反射光(同行・中和・逆行)の動きと、それぞれの屈折状態の判定を説明できる。			検影器(線状検影器) 15本 被検者 同行:2名・中和:2名・逆行:2名 動画で観察できる検影器 1本		
講義内容								
時間/段階	指導内容・指導方法					留意点		
導入 (15分)	1.検影法の目的を説明する。 2.評価の概要について説明する。 ・検影器を動かして光の反射を観察する。 3.反射光についての概説 ・同行、中和、逆行について概説する。					・動画で見せる。		
展開 (70分)	1.体験をする。 2.観察した内容について、感想を述べさせる。 3.屈折状態の判定(同行・逆行)の動きを確認する。 4.反射光の動きを再確認する。 5.－2Dよりも強い近視なのか、弱い近視・遠視・正視なのかを観察する。 6.正しい検査条件(検査距離・投射光・被検者の調節)について説明する。					・体験は45分間。 ・被検者は、予め屈折状態を把握しておく(同行・逆行のみ) ・観察する時は、教員がサポートする。 ・あいている学生は、器械をさわる。 ・学生3名程度を指名する。 ・定義を理解させる。 ・同行・中和・逆行の3種類の動きの確認をする。		
まとめ (5分)	反射光(同行・中和・逆行)の動きと、それぞれの屈折状態の判定を再確認する。					次回は、原理についての講義を行う。 そのため、以下の課題を出しておく。 【課題】 －2Dの近視を基準にした理由		

研修テーマ		検影法の初回講義			
グループ	C	人数	6	教員歴	0～10年
学習指導案(コシラバス)					
科目名	検査学	講師名		日/時間	90分×1コマ
対象学生	2年次 前期	人数	30	授業形態	演習形態
科目目標		講義目標		準備物	
検査の目的、原理、検査方法とその評価法について理解する		反射光(同行・中和・逆行)の動きと、それぞれの屈折状態の判定を説明できる。		検影器(線状検影器) 15本 被検者 同行・2名・中和・2名・逆行・2名 動画で観察できる検影器 1本	

講義内容		
時間/段階	指導内容・指導方法	留意点
導入 (15分)	1. 検影法の目的を説明する。 2. 評価の概要について説明する。 ・検影器を動かして光の反射を観察する。 3. 反射光についての概説 ・同行、中和、逆行について概説する。	・動画で見せる。

講義内容		
時間/段階	指導内容・指導方法	留意点
まとめ (5分)	1. 反射光(同行・中和・逆行)の動きと、それぞれの屈折状態の判定を再確認する。	次回は、原理についての講義を行う。 そのため、以下の課題を出しておく。 【課題】 ・→2Dの近視を基準にした理由

講義内容		
時間/段階	指導内容・指導方法	留意点
展開 (70分)	1. 体験をする。45分 2. 観察した内容について、感想を述べさせる。 3. 屈折状態の判定(同行・逆行)の動きを確認する。 4. 反射光の動きを再確認する。 5. →2Dよりも強い近視なのか、弱い近視・遠視・正視なのかを観察する。 6. 正しい検査条件(検査距離・投射光・被検者の調節)について説明する。	・体験は45分間。 ・被検者は、予め屈折状態を把握しておく(同行・逆行のみ) ・観察する時は、教員がサポートする。 ・あいている学生は、器械をさわる。 ・学生3名程度を指名する。 ・定義を理解させる。 ・同行・中和・逆行の3種類の動きの確認をする。

研修テーマ		検影法 初回講義						
グループ		E	人数	6名		教員歴	0 ～ 17年	
学習指導案(コマシラバス)								
科目名	生理光学Ⅲ		講師名			日/時間	90分×1	
対象学生	2年前期		人数	40名		授業形態	講義	
科目目標			講義目標			準備物		
1. 他覚的屈折検査にはどのようなものがあるか、それぞれの検査対象および特徴を理解する。 2. 他覚的屈折検査を正しく検査できる			1. 検影法が他覚的屈折検査であることを知る。 2. オートレフとの違いを知る 3. 検影法の実際を知る			・ レチノスコープ ・ 板付きレンズ ・ プリント		
時間/段階		指導内容・指導方法				留意点		
導入 (10分)		「みんながオートレフを測定できるのかな？ どんな場合測定できないと思う？」 ⇒ オートレフでは屈折値を測定できない場合があることを気づかせる。						
展開 (70分)		導入で発表させた内容から、検影法の長所の話につなげていく。 1. 検影法の長所 2. 測定法、注意点、評価方法 デモンストレーションで学生3名に対して検影法を行う。 その際、観察してほしい点を3つを伝えておく。 ・測定法 ・注意点 ・評価法(検者は何を見ているのか) 3. 観察させた上記3つについて講義を行う。 使用器具 検査距離 検者と被験者の位置 反帰光の見え方(同行、中和、逆行について)				デモンストレーションを行い、興味を持たせる。 ただ、講義を聞くのではなく、考えさせる。 アニメーションを見せることで、反帰光の見え方に興味を持たせる。 ここでは難しい理論は話さない。 次回、実際に反帰光を見れるようなレベルまでの話を行う。		
まとめ (10分)		今回の講義で伝えた項目を伝える。 次回講義に向けての小テストの予告を行う。				次回、反帰光を見せる。 また、どうしてそのように見えるのか等の理論を話す。		

検影法 初回講義

Eグループ

科目名: 生理光学Ⅲ

対象学生: 2年前期 (40名)

生理光学を習っている事は前提
レンズ(矯正レンズも含む)について
光の性質(直進、逆進含む)
屈折異常 について 等

講義時間: 90分 × 1

科目目標:

1. 他覚的屈折検査にはどのようなものがあるか、それぞれの検査の対象および特徴を理解する。
2. 各他覚的屈折検査の正しく検査できる。

講義目標:

1. 検影法が他覚的屈折検査であることを知る
2. オートレフとの違いを知る
3. 検影法の実際の検査を見る

準備物:

- ・レチノスコープ
- ・板付きレンズ
- ・プリント

配布プリント

- ・A4の用紙
- ・考えた内容や講義内容を書き込むもの。

検影法	
長所	
検査方法	
使用器具	観察したこと
注意点	
評価 (何を見ているか)	

導入(10分)

学生への質問から始める

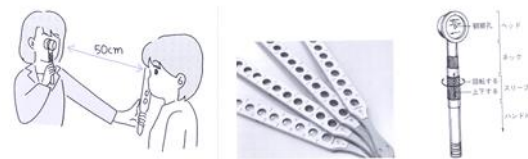
「オートレフの実習を前回行ったけど、みんなレフをとれるのかな???
どんな場合取れないと思う?」

学生からの意見を聞く
これを展開の検影法の長所に繋げる

展開(70分)

1. 検影法の長所について講義
2. デモンストレーションを行う
 - ・教員が3人位の学生を被検者に行う
 - ・見学している学生には何を使用しているか、何に気を付けているか、何を見ているかを観察させる。
⇒ プリントに自分で観察したことを記載させる

3. 使用器具、検査手順および注意点、
評価(眼底からの反帰光)について説明する。

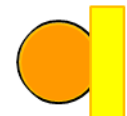
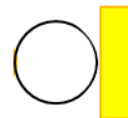


4. 同行、中和、逆光について説明

同行



逆行



中和

まとめ(10分)

1. 今回の講義のまとめ
 - ・検影法の長所
 - ・検査の実際を観察してもらった
2. 次回講義に向けて小テストの予告
内容も伝えておく 屈折異常の定義
Key Word 遠点、共役、結像、
光線束(平行、発散、収束)

研修テーマ		大型弱視鏡初回実習				
グループ	B	人数	6	教員歴	1年未満～7年	
学習指導案(コマシラバス)						
科目名	基礎視能訓練学	講師名		日/時間	90分×1	
対象学生	2年 後期	人数	40名	授業形態	実習	
科目目標		講義目標		準備物		
大型弱視鏡を使えるようになる		・大型弱視鏡の各部の名称と働きが理解できる ・検査前準備ができる		・大型弱視鏡×10台 ・レンズセット×10個 ・スライド×10セット		
講義内容						
時間/段階	指導内容・指導方法			留意点		
導入 (30分)	グループワーク(1グループ4人) ・各部名称の確認(10分) グループごとに実際に機械に触れながら行う ・検査前の準備(器械の設定)の説明(20分)			・基点=0° の位置の確認 ・光量調節 ・自動点滅になっていないか		
展開 (50分)	2人が検者・被検者、2人が観察・指摘 実際に器械の設定を行う (1) 光学台・椅子の高さ調整 (2) 顎台(接眼部と眼の高さ)の調整 (3) 瞳孔間距離の調整 (4) 額当ての調整 (5) 屈折矯正(乱視は等価球面)			・患者さんへの配慮ができているか ・清潔に気をつけているか ・遠見での測定であると理解できているか ・適切な光学的要素が満たされているか ・等価球面が理解できているか		
まとめ (10分)	・検査を始める段階までの概要確認(5分) ・小テストを行い、本日の実習の理解度を確認する(5分)			小テストで理解度を確認し、 不十分な項目は次回復習する		

第4回 教員研修会 大型弱視鏡 初回実習

B班

講義概要

- 科目名:視能訓練学(実習)
- 対象学年:2年生 後期
- 時間:90分×1
- 人数:40名(1グループ4名×10)

- 科目目標
『大型弱視鏡が使えるようになる』
- 講義目標
『大型弱視鏡の各部名称と働きが理解できる』
『検査前準備ができる』
- 準備物:大型弱視鏡×10台
レンズセット×10個
スライド(各サイズ)×10セット

導入(30分)

〈グループワーク〉

- 各部名称の確認(10分)
グループごとに実際に機械に触れながら行う
- 検査前の準備(器械の設定)の説明(20分)

導入(留意点)

- 基点の $=0^\circ$ の位置の確認
- 光量が適切に調整されているか
- 自動点滅になっていないか

展開(50分)

方法

〈2人が検者・被検者、2人が観察・指摘〉
実際に器械の設定を行う

内容

- (1) 光学台・椅子の高さ調整
- (2) 顎台(接眼部と眼の高さ)の調整
- (3) 瞳孔間距離の調整
- (4) 額当ての調整
- (5) 屈折矯正(乱視は等価球面)

展開(留意点)

- 患者さんへの配慮ができているか
- 清潔に気をつけているか
- 遠見での測定であると理解できているか
- 適切な光学的要素が満たされているか
- 等価球面が理解できているか

まとめ(10分)

- ・検査を始める段階までの概要確認(5分)
- ・小テストを行い、本日の実習の理解度を確認する (5分)

留意点(まとめ)

- 小テストで理解度を確認し、
不十分な項目は次回復習する

研修テーマ		大型弱視鏡初回実習					
グループ		D	人数	5名	教員歴		
学習指導案(コマシラバス)							
科目名	視能矯正学実習	講師名			日/時間	90分×2	
対象学生	2年後期	人数	18人	授業形態	実習		
科目目標		講義目標		準備物			
斜視、両眼視機能検査を習得する		検査準備ができるようになる 他覚的斜視角を検査しつつ、 大型弱視鏡に慣れる		シノプト×6、小テスト、視能学			
講義内容							
時間/段階	指導内容・指導方法				留意点		
導入 (25分)	講義内容の確認 小テスト 解答と解説						
展開 (145分)	・大型弱視鏡の利点・欠点(15分) ・準備の仕方 ・使い方について(計15分) ・各検査方法について(計30分) 検査方法(OA) ① 角膜反射法 ② 交代点減法 ③ 固視眼点減法 ・2講目に行う内容の確認 ・全体に検査準備を説明、二班に分かれて一班ずつ演習。						
まとめ (10分)	今回の実習内容の確認 次回の実習内容の説明(自覚的斜視角)						

大型弱視鏡検査

Dグループ

講義概要

- ◎ 科目名： 視能矯正学実習
- ◎ 対象学年： 2年後期
- ◎ 時間： 90×2
- ◎ 科目目標： 斜視、両眼視機能検査を習得する
- ◎ 講義目標： 1. 検査準備が出来るようになる
2. 他覚的斜視角を検査しつつ、
大型弱視鏡に慣れる
- ◎ 準備物： 大型弱視鏡×6、小テスト、視能学

講義内容前提

- ◎ 専門学校3年制
- ◎ 大型弱視鏡の台数が6台
- ◎ 大型弱視鏡の説明を事前に座学にて行っている
- ◎ 眼位検査を実習にて行っている
- ◎ 36名のクラスを二班に分けた18名を講義

導入(25分)

講義内容の確認

- ◎ 小テスト (10分)
- ◎ 解答と解説 (15分)

展開

- ◎ 大型弱視鏡の利点・欠点 (15分)
- ◎ 準備の仕方
- ◎ 使い方について (計15分)
- ◎ 各検査方法について (計30分)
- ◎ 検査方法 (OA)
 - ① 角膜反射法
 - ② 交代点減法
 - ③ 固視眼点減法
- ・ 2講目に行う内容の確認 (5分)

展開

- ◎ 二班に分かれ再度1班ずつ説明 (各30分)、残りの1班は実際に準備及びOA検査。
- ◎ 再度二班に説明後、教員が各班を回り質問等に対応。 (20分)

まとめ(10分)

- ◎ 今回の実習内容の確認
- ◎ 次回の実習内容の説明 (自覚的斜視角)

研修テーマ		大型弱視鏡				
グループ	F	人数	5人	教員歴	2年～27年	
学習指導案(コマシラス)						
科目名	視能矯正学実習	講師名		日/時間	90分×2	
対象学生	2年生	人数	6～8人	授業形態	実習	
科目目標		講義目標		準備物		
正常者の大型弱視鏡における 両眼視機能検査理解		正常者に対して 他覚的斜視角と自覚的斜視角の 測定方法と網膜対応の確認		大型弱視鏡 ペンライト 瞳孔間距離計		
講義内容						
時間/段階	指導内容・指導方法			留意点		
導入 (50 分)	・ 器械の構造と測定原理 ・ 各部の名称の確認 ・ セッティング(器械設定と測定時の設定) ・ スライドの入れ方、 ・ アームの動かし方 ・ 1° ～5° 眼の動き			遠見の眼位の測定 眼球運動と両眼視機能 ゼロ設定、光量調節 被験者への気遣い 1° ～5° 眼の動き		
展開 (100 分)	・ 他覚的斜視角測定 ・ 自覚的斜視角測定 ・ 網膜対応の確認 デモンストレーションを行ってから、グループ実習			固視眼を決めて スライド設定 患者の理解度の確認 スライドの選択 中空か否か 大→小 操作は検者か被検者か 消灯方法と眼位確認 2回行う 眼球運動の動きが理解 できているかの確認 眼球の整復運動に対応する アームの操作確認 実際に巡回をしながら 学生の操作の確認 実習時の質問に対応		
まとめ (30 分)	・ 記載とデータの読み方 ・ 質疑応答 ・ 次回の実習について					

大型弱視鏡 初回実習

グループF

教員歴 2年～27年

学習指導案

- 科目名 視能矯正学実習
- 90分×2コマ
- 対象学生 2年生
- 人数 6～8人
- 授業形態 実習

学習指導案

- 科目目標
正常者の大型弱視鏡における両眼視機能検査理解
- 講義目標
正常者に対して他覚的斜視角と自覚的斜視角の測定方法と網膜対応の確認
- 準備物
ペンライト、瞳孔間距離計、大型弱視鏡

演習内容 導入(50分)

- 器械の構造と測定原理
留意点
遠見の眼位の測定
眼球運動と両眼視機能
- 名称の確認及び構造
- セッティング
器械設定と測定時の設定
留意点
ゼロ設定、光量調節
被験者への気遣い
- スライドの入れ方
- アームの動かし方
留意点
1°～5° 眼の動き

展開(100分)

- 他覚的斜視角測定
留意点
固視眼を決めて
スライド設定
- 自覚的斜視角測定
留意点
患者の理解度の確認
スライドの選択 中空か否か
大→小
操作は検者か被検者か
- 網膜対応の確認
留意点
消灯方法と眼位確認

展開(100分)

- デモンストレーション
- ↓
- グループ実習
- 留意点**
2回行う
眼球運動の動きが理解
できているかの確認
眼球の整復運動に対応する
アームの操作確認
 - 留意点**
実際に巡回しながら
学生の操作の確認
実習時の質問に対応

まとめ(30分)

- 記載とデータの読み方
- 質疑応答
- 次回の実習の予告

最終ディスカッション

すべての班のプレゼンテーションが終わったあと、テーマ毎のグループでまとめを行なった。

【検影法講義】

毎年、意識的に教員歴や経験歴でグループ分けがされるため、それぞれの班の違いが認識しやすく、各自いろいろ気がついたこと、感じたことがあるのではないかとすることから、自己紹介をかねて視能訓練士歴の浅い教員から1人1人感想や普段困っていることなどを発表していった。

教員歴の少ない教員は、学生を引きつけるための工夫やシラバスを作成する際の流れなどをどう考えるかが大変勉強になったようであった。

- ・自分たちのシラバスは原理中心であったが、『体験』や『見せる』ということが大切だと感じた。
- ・シラバスを初めて作ったが、導入から展開にどうつなげたら良いかが難しかった。
- ・学生をどう引きつけるかという事など勉強になる事が多かった。
- ・授業中や授業の最後に小テストを行うことは考えていなかったが、復習をやってこない学生が多いので小テストは全員一斉に出来るので良いと思った。
- ・動画やアニメーションは、視覚的に学生の印象に残せると感じた。

指導歴の長い教員からは、実際に行っている指導方法や、各先生方の工夫、学生の現状等についての話が多かった。

- ・演習の科目に関しては、講義を行ったその週のうちに実習を行うようにしている。
- ・専門性を早く知るためにカリキュラムの組み方も工夫している。
- ・小テストは導入の一つとして、前回分の授業の復習として行う。学生にも何らかの評価として入れることを伝えている。また小テストは毎回行うことが大切で、たまにやるのは効果がない。
- ・授業後、その内容に関する国家試験問題を抜粋して行う。
- ・以前はプリントを配布していたが、プリントを渡すと覚えないため、今はほとんど配らずに、学生にノートを作らせる。教科書を見る学生が増えたが、学生間での差が出ることも否めない。
- ・板書がいいが時間がかかるので、パワーポイントをうまく使って補う。
- ・授業中に教案を置き、シラバスに実際にかかった時間等を記入し、授業後には修正を加えている。
- ・導入から展開への流れは、今回の講義で何を理解させたいかの目標をしっかりと決めた上でそれに向かってどのように学生に興味を持たせるようにするか逆算していくとよい。
- ・メモが取れない、教科書を全然開かない、教科書が読めない学生もいるので、1冊の教科書を利用して、学問の流れを知る意味も含めてしっかり読ませている。

今回のシラバス作りや発表を聞くことで学生に理解させるための様々な工夫を知ることが出来た。

そして、目標を決めて一貫性のある授業を行うためにはシラバスは必要不可欠なものであることが分かった。若い教員は学生に一番近い立場にあるからこそ、学生時代に、先生にこうして欲しかった等と感じていたことを行っていくこともよいのではないかな。今回の意見を参考に、良い授業を行っていくとディスカッションを終えた

【大型弱視鏡の初回実習】

話題①

各グループの発表を聞いて、様々な授業形態があることが分かった。その中で、実習と演習の違いについて、どのように認識しておけばいいか。

(意見)

- ・学部レベル（実習）と大学院レベル（演習）で区別するのではないか。
- ・人数によって使い分けるのではないか。
- ・時間数、単位数で変わるのではないか。
- ・はっきりとした定義は分からない。定義を確認し共通認識を持つ必要がある。

話題②

実習のコマシラバスを作成するにあたり、種々の条件（教員数、機械の保有台数、学生数）によって、授業方法が異なると思うが、より効果的な実習を行うための工夫や現状を教えて欲しい。

(各校の状況)

- ・1 クラス 50 名程度。1 グループ 6～8 人、非常勤の実習指導担当教員を含め計 6～7 人で同時に実習指導を行っている。事前の小テストでグループの到達度を確認し、結果によって指導方法を変える。すべての実習が終了した後、全教員でミーティングを実施し評価を行う。
- ・1 クラス約 30 名。1 グループ 4～6 名、教員 1 名で担当。実習終了後レポートを提出させ、確認を行う。レポートが合格するまで再提出させる。大型弱視鏡は 180 分×3～4 回行っている。
- ・教員 1 名で、視野・大型弱視鏡など場所が重ならないように部屋を分けて行う。
- ・「検査学講義」、「検査学実習」と科目を分け、1 つの実習に対して教員 3 名で担当する。
- ・1 クラス 50 名。1 グループ 12～14 名。教員 1 名で担当を試みたが、目が行き届かず非常に難しかった。
- ・1 学年約 30 名。各分野を分担し、講義と実習を 1 名の教員が担当する。実習は 5～6 グループに分け、教員 1～2 名で指導する。毎回レポートを提出させ確認する。再提出は行っていない。
- ・1 学年約 20 人。2 グループに分けて教員 1～2 名で指導している。小人数グループが理想だが、教員数から考えて困難である。

(まとめ)

各教員の工夫を知ることができた。他の教員がどんな方法で実習指導を行っているか、最も興味ある部分である。今後、さらに情報交換を続けることが必要かもしれない。

贊助會員協贊企画

賛助会員協賛企画

当学校協会では、平成 21 年度より賛助会員を募集し、現在 5 社からご賛同、ご協力をいただいている。研修の機会に併せて学校協会関係者に器材や知識の最新情報を広く周知できると考え協賛のご依頼をしたところ、今回 4 社からのご協力を得ることができたので、併せて報告する。

〔第 4 回研修会協賛〕

- 株式会社 TMI : 器械展示
- HOYA 株式会社 : 器械展示
- ジャパンフォーカス株式会社 : 器械展示
- クーパービジョン・ジャパン株式会社 : ランチョンセミナー

＜器械展示＞

株式会社 TMI からは昨年に引き続き、多数の商品を展示していただいた。

また今回は、HOYA 株式会社、ジャパンフォーカス株式会社からも多くの商品の展示をしていただいた。ただ、今回も時間の関係でゆっくりと見る時間が少なかったのが、残念であった。

＜ランチョンセミナー＞

クーパービジョン・ジャパン株式会社の川田様にコンタクトレンズの基礎講座として現在のコンタクトレンズ（CL）の市場、CL 販売に関する法律についてお話をいただいた。



Enhance Program

◆ ◆ 基本理念 ◆ ◆

コンタクトレンズユーザーに、より快適で安全なコンタクトレンズを提供するには、

- コンタクトレンズメーカー
- コンタクトレンズの処方に関わる人(眼科、スタッフ)

が、コンタクトレンズの専門性や知識を高めていくことが必要と考えています。

CVJ Professional WEB ~ CL関連資料、学会情報

パッケージ資料 ~ 資料冊子、CD、Enhance Book

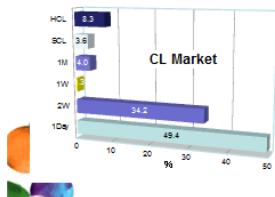
講習会・WS ~ 全国

情報として ～ CL市場

トレンド

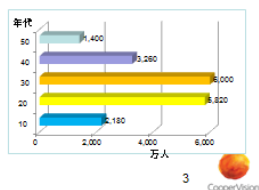
いま市場ではどのタイプのレンズが使われているのか。

シェア: 1日使い捨てSCLが49%
2週間交換SCLが34%
(data: CVI調べ 2011.05)



CL患者の動向(2008 CVI調べ)

使用人口 約1800万人
使用年代 10代、20代、30代で75%、そのうち62%が女性。
全体でも、女性が64%を占める。

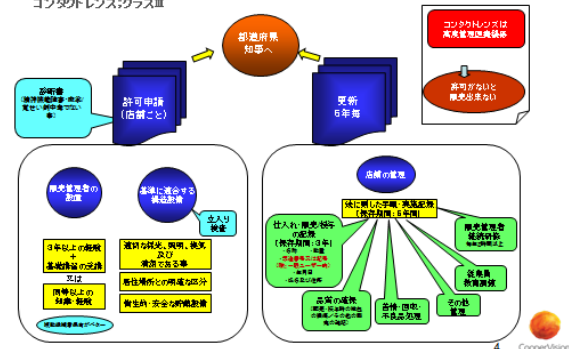


改正薬事法による販売業の概念図

コンタクトレンズ: クラスIII

製造販売規制 販売規制

大臣承認 許可制



CLの基礎知識 ～教材見本

機能(デザイン)による分類(SCL・HCL)

1. 球面レンズ(非球面)
2. 乱視用レンズ (トーリックレンズ)
3. 遠近両用(2重焦点・多焦点)レンズ
 - 交代視型
 - 同時視型
 - セグメント型
 - 同心円型
 - 累進多焦点型
 - 回折ゾーン型
4. 円錐角膜用レンズ
5. オルソケラトロジー

CL処方の流れ

CL処方の実際 ～実習から

使用レンズ

- HCL・SCLの取り扱い方法 ～ SCL Sample
 - ✓実習、ビデオでも紹介します
 - ✓CL使用者でも間違っていることがあります
- 自眼装脱、他眼装脱 ～ SCL Sample
 - ✓他眼の装脱は慣れが必要
- フィッティング判定の基本 ～ SCL Sample
 - ✓何(何処)を見ているのか
 - ✓SCLフィッティングはどう見るか(ビデオでも紹介)
 - ✓HCLフィッティングはどうみるか(ビデオでも紹介)

今回、昨年の形を継投し賛助会員によるセミナーと器械展示を企画した。本研修会の為だけに展示、セミナーを行っていただく最高に贅沢なものであると感じる。展示は研修時間の関係で、なかなかゆっくりとは拝見することができないのが残念と昨年同様の意見も出ていたが、それでも普段の学会の時よりもじっくりと話を聞き、手に取ってみることができた。セミナーも私たちの要望に沿った内容で、普段あまり聞くことのできない法律についても拝聴することができた。

最後に、今回ご協力いただいた4社に感謝申し上げますとともに、賛助会員の皆様には今後ともご支援いただきたく、WG一同心よりお願い申し上げます。

研修風景

開会の辞



教育講演



ポートフォリオ作成



グループワーク



懇親会



成果発表



最終ディスカッション



会長総評



集合写真



アンケート結果

4. 研修会の運営について

- ① 開催日の設定 (よい よくない どちらともいえない)
よくないとすれば、いつ頃がよいでしょうか ()
- ② 全体タイムスケジュール (よい よくない どちらともいえない)
- ③ 事前・直前アナウンスについて、何かご要望、ご意見等ございましたらお書き下さい。

- ④ その他研修会運営に関するご意見、ご要望等

5. 研修会は教育活動の参考になった (なった ならない どちらともいえない)

6. また研修会に参加したいと思いますか (思う 思わない どちらともいえない)

7. 研修会全体に対するご意見、ご要望

~~~~~  
最後に、研修会に対するご意見とは別に、今回の研修を振り返って、ご自身の感想などをお聞かせください。

ご協力、ありがとうございました。

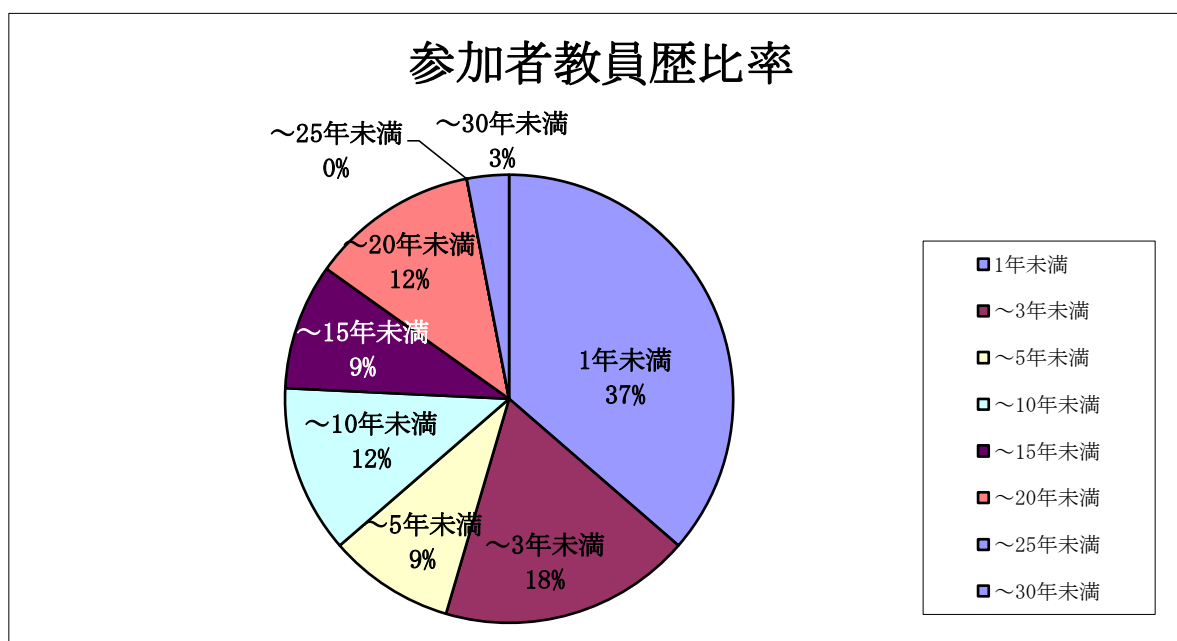
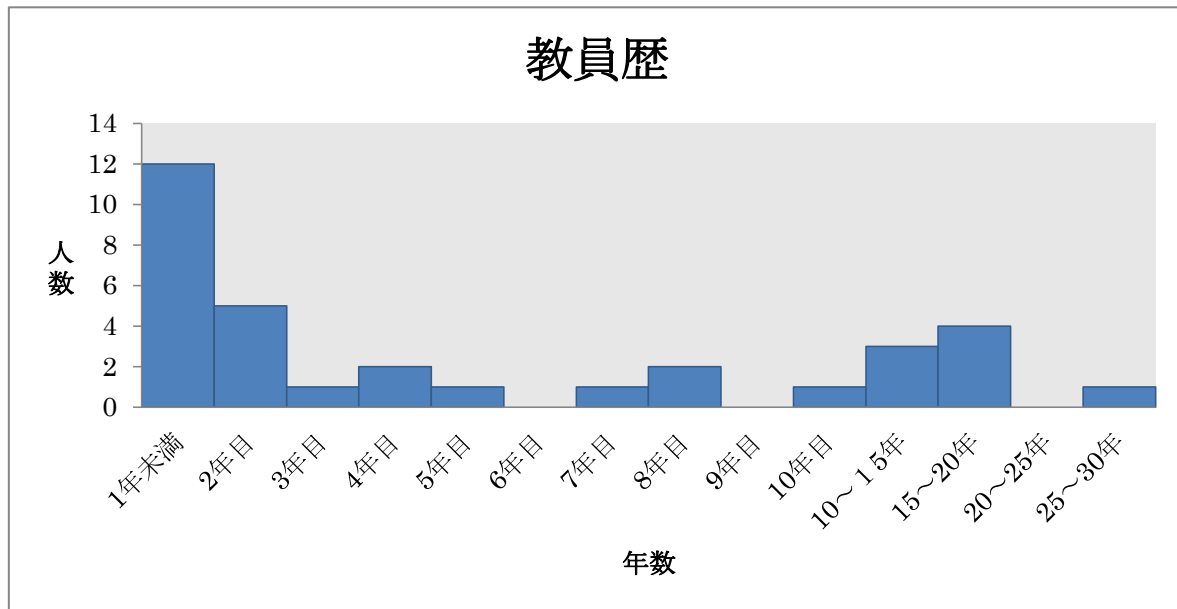
## 第四回教員研修会 アンケート結果

平成 23 年 8 月 25・26 日

研修参加者数 33 名（全日程通し参加者 33 名）

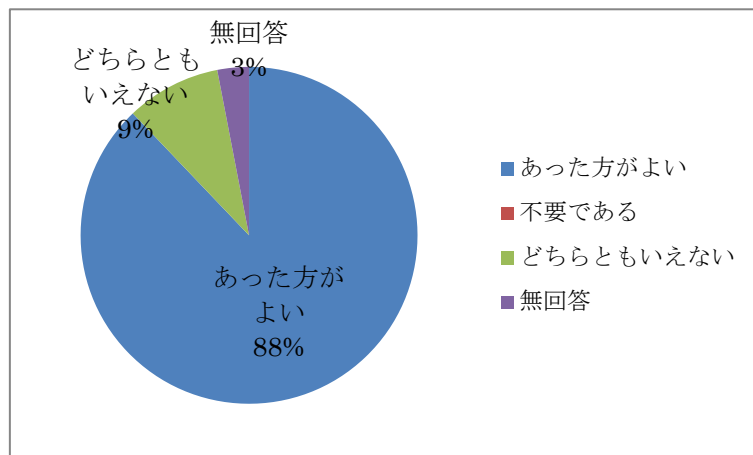
アンケート回答者数 33 名 （100%）

### 参加者教員歴

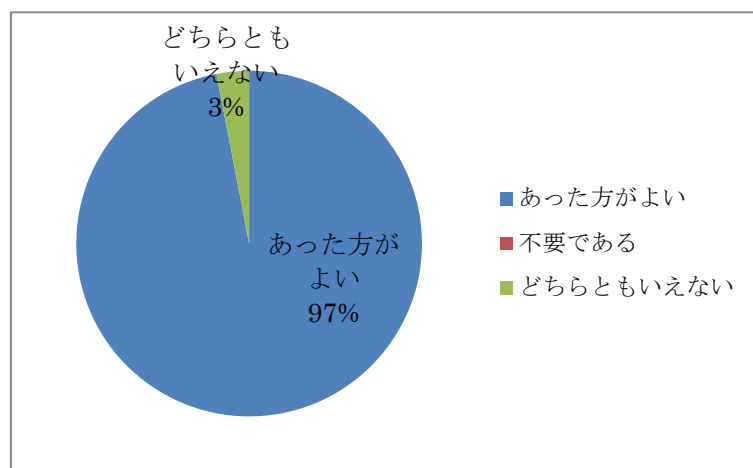


## 1. 教員研修全体のプログラム構成について

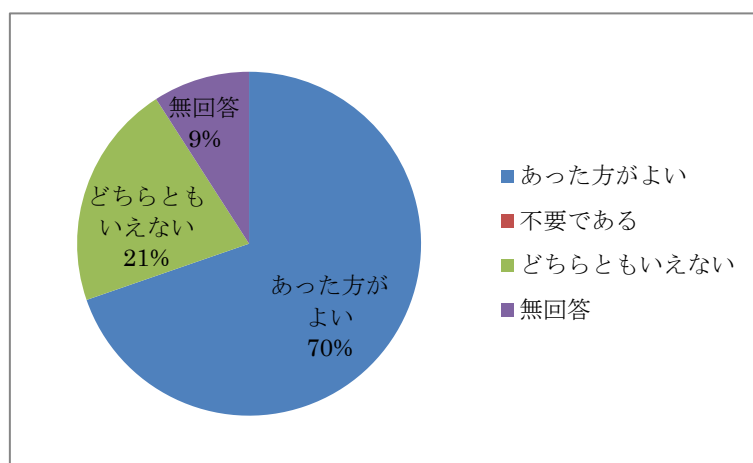
### ・ 教育講演



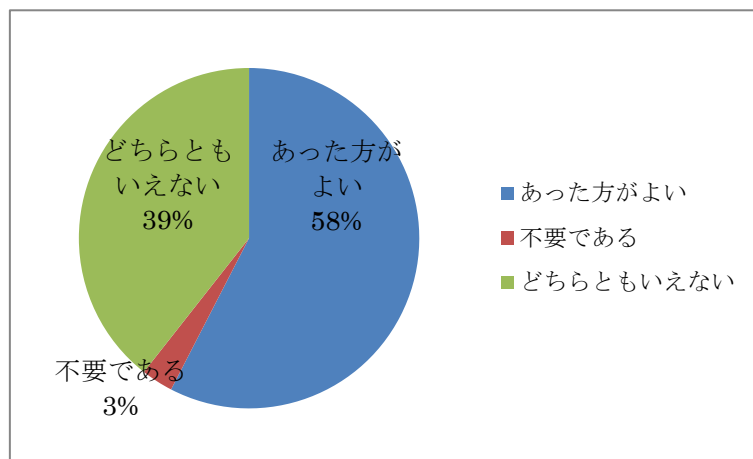
### ・ グループワーク



### ・ 賛助会員によるセミナー

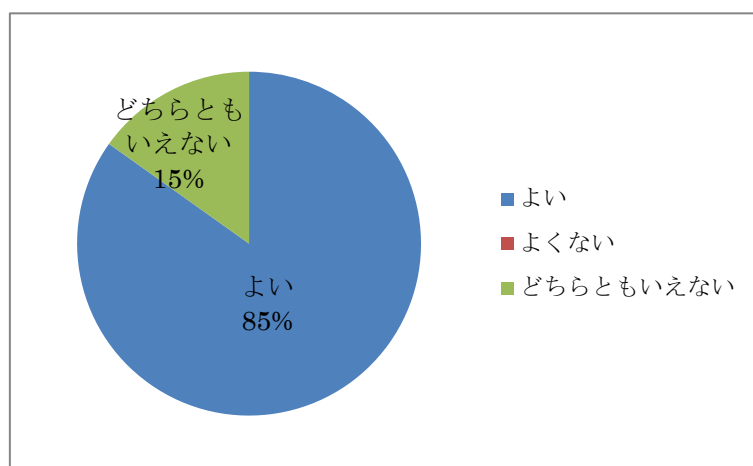


- ・ 器械展示

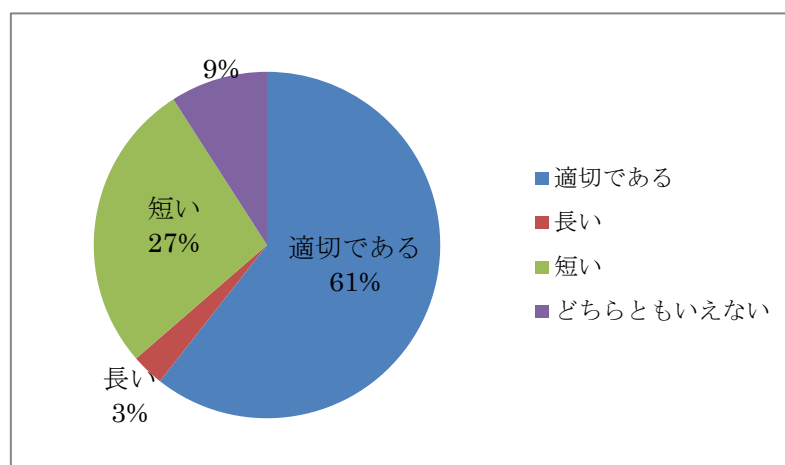


## 2. グループワークについて

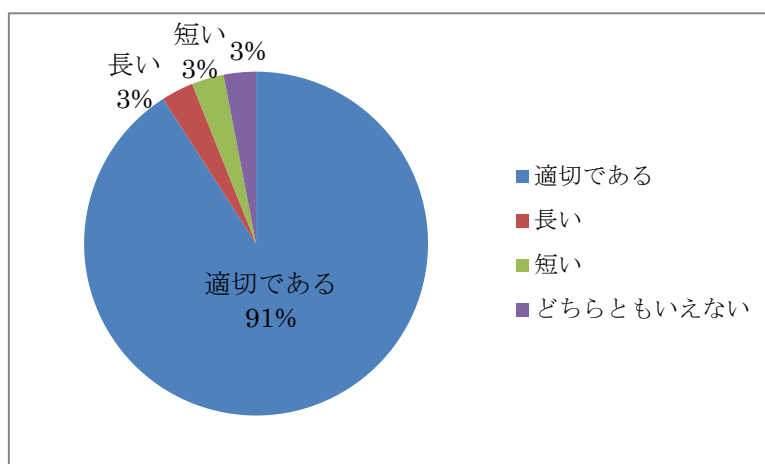
- ・ テーマはよかったか



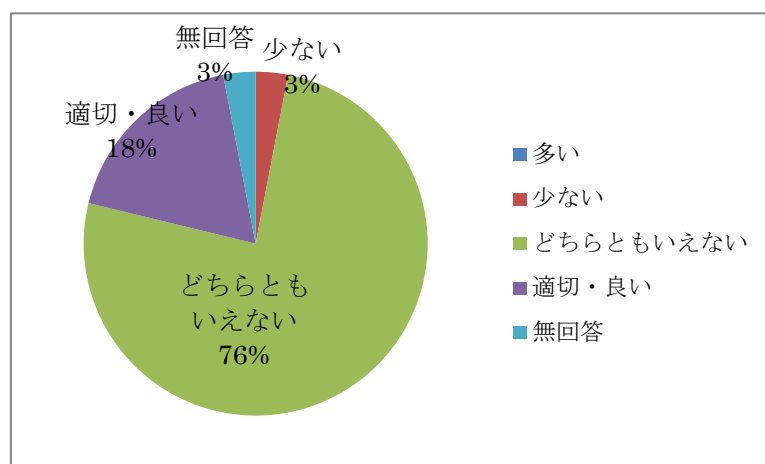
- ・ 時間配分は適切だったか



- 個々の発表時間

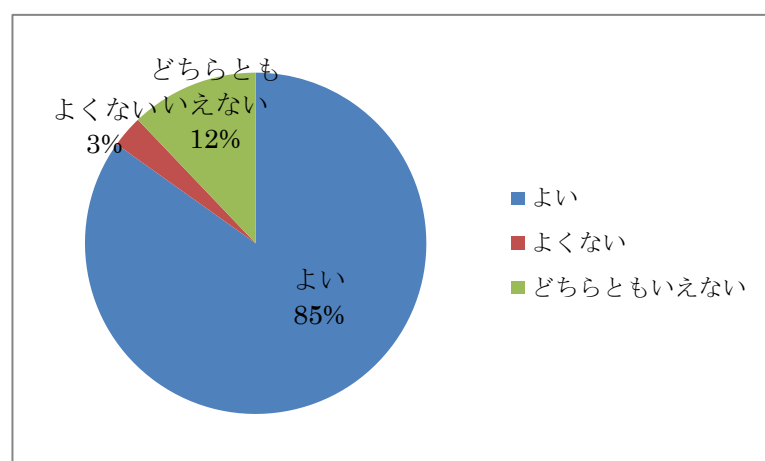


- グループ人数

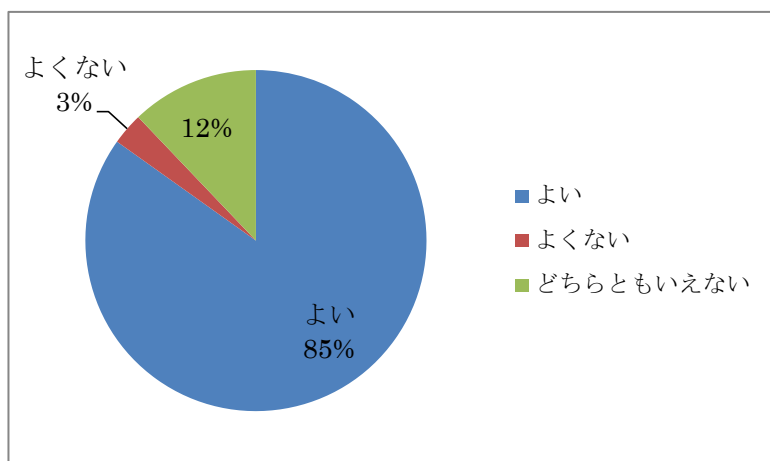


### 3. 研修会の運営について

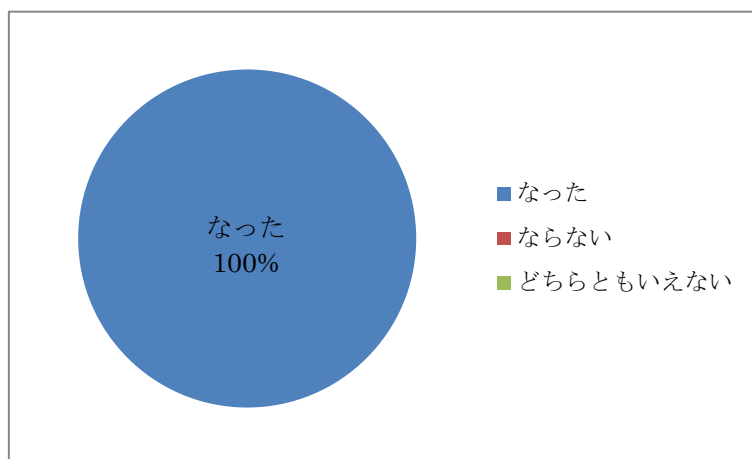
- 開催日の設定



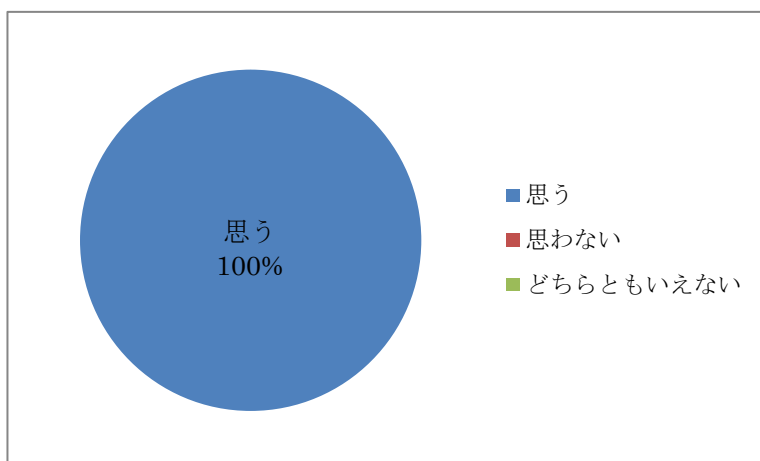
・ 全体のタイムスケジュール



4. 教育活動の参考になったか



5. また参加したいと思うか



## 意見・感想

|                           |                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研修会全体の<br>プログラム<br>構成について | 賛助会員に<br>よるセミナー | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あったほうがよいが申し訳ない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                           | 器械展示            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あったほうがよいが申し訳ない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 教育講演に<br>ついて              | 意見・感想           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで全く知らなかったお話を聞くことができて大変為になりました。</li> <li>・ 大変良かった。6時間のフルであれば良かったのかも。</li> <li>・ 学生に対する指導方法でとても参考になりました。</li> <li>・ 精神的な部分での学生指導がよく分からなかったのですが、大変参考になりました。これから役立てていきたいと思います。</li> <li>・ たいへん参考になりました。心に響きました。もっと早く知って入れば自身の子育てにも役立てたなと思います。これからは生徒のために応用していこうと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 非常に参考になる講演であったと感じていますが、対象は自分であって、20歳前後の学生に反映できる内容ではないのではと思います。</li> <li>・ 学生たちの自身のなさがメンタルの弱さにつながっていたり、チームワークの取れないことにリンクしている。卒業までに自己肯定感を身に付けて、他人を受容できる医療人材として育てる為にパーソナルポートフォリオを活用していきたいと思います。</li> <li>・ 大変、楽しみにしていた講演であり、実際に拝聴して今後実践していきたいと感じました。</li> <li>・ 初めて知った内容だったのでとても勉強になった。</li> <li>・ 楽しく参加させて頂きました。</li> <li>・ 生きている中での喜びというものを気付かせる良い機会であったと思う。</li> <li>・ 今回出席の目的の1つが教育講演であったため実際に実習をさせていただいたので大変良かったです。先生のお話が聞けたことがうれしかったです。</li> <li>・ 教育方法を実際の先生から生で聞いたのは良かったです。自己肯定感を持てる学生を育てたいと思いました。</li> <li>・ グループワークが大変よかった。パーソナルポートフォリオは学生指導に試行してみたいと思いました。ありがとうございました。</li> <li>・ 初めて聞く内容で大変勉強になりました。子どもだけでなく、大人にも充分利用できることが分かり、機会があればぜひ自分でも続けてみたいと思います。ワーキングをもう少し長くできるとよかったです。</li> <li>・ とても感動しました。これから参考にしていきたいです。</li> <li>・ すぐくためになったしとても楽しく話を聞いた。</li> <li>・ とても感動しました。ほめること、認めることが大切なんだと思い、</li> </ul> |

|          |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育講演について | 意見・感想      | <p>また、自信を持たせることでこんなにその人の人生が大きく変わると感じました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仕事で活用しようというより、子育ての中で活用したいと感じました。講師の先生の話をついていくうちに普段気になっている子育てについて見直すよい機会となりました。ありがとうございました。</li> <li>・ 自分を見つめなおし、自分を理解することはとても重要だと思います。今回は、実際に自分のポートフォリオを作成したり、自分に関する話題を他人にしたりする機会が得られ、とても勉強になりました。</li> <li>・ ポートフォリオの手法を学べたことが有意義だった。</li> <li>・ パーソナルポートフォリオに関して、自己の肯定が学習意欲に大きく関わる事は感じていましたが、この度、具体的に聞けて良かった。医療系学校として感じるのは、技術面だけでなく学生を心理的、人間的にどう向上させるかという点に関心あるので今後もこういう精神向上を主体とした内容が良い。</li> <li>・ 今回初めて参加させていただき、とても勉強になりました。</li> <li>・ 大変参考になりました。パーソナルポートフォリオは、小・中学校で積極的に行っていただきたい内容だと思いますが、視能訓練士の職業教育あるいは大学としての学士教育について考えると導入は難しいかなと感じました。ただ、現在の学生をみていると自己肯定のない学生が学校生活の中で友人やよい人間関係を形成していくのが難しいかなと感じました。</li> <li>・ ポートフォリオは、ひとつの教育方略として利用したいと考えていました。どのような形で利用するのが良いか、これから検討したいと思います。</li> <li>・ 教育講演の骨子は、自己肯定と他者への尊厳を構築するための方法でしたが、それはあらゆる世代に生かせる話であると興味深くきかせていただきました。実習でおこなったとりくみは、人間関係を深める楽しいものでした。又、講師の先生は話もうまく歌も上手で感心しました。</li> <li>・ 自分のふだんの生活までふりかえることができとても良かったです。</li> <li>・ 専門学校生にも自己肯定など必要な時代であるし、いろいろな話に感動しました。</li> </ul> |
| 教育講演について | 今後聞いてみたい内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎科目、特に生理系の科目の講演を。</li> <li>・ 上手く伝わる話し方について</li> <li>・ 新しい器械について（臨地実習中に病院にある器械についてきかれても、本などにのっていないような最新の器械について分からず困ることがしばしばあるので。）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|             |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 教育講演について    | 今後聞いてみたい内容 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ セルフコントロールについて</li> <li>・ 対応検査</li> <li>・ 屈折（生理光学）</li> <li>・ 視野</li> <li>・ 心を強くするというような内容の話が聞きたいです。最近の学生はすぐにへこんでしまい、気持ちの切りかえがうまくできないように思います。「人間性を育てる」というようなことをきかせていただけたらうれしいと思います。</li> <li>・ 講義の手法、話し方、説明の仕方などの具体的研修</li> <li>・ 小中高校における教育の内容と動向について</li> <li>・ カリキュラムのガイドラインにそった講義の組み立てのポイントや方法論の講演</li> <li>・ グループワークがコマシラバス（教案）作成であり、それに関係</li> <li>・ あるカリキュラム、シラバスの考え方などのテーマはいかがでしょうか？</li> <li>・ 国試対策に関する内容、たとえば試験 1 年前、6 カ月前、3 カ月前、1 カ月前に何を実施しているのかなど予備校などの対策を聴いてみたいと思います。</li> </ul>                                                                                  |
| グループワークについて | 意見・要望      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シラバスの進め方について大変参考になるお話しが聞けてとても良かったです。</li> <li>・ もう少し、時間が欲しかったです。</li> <li>・ 実際の授業をロールプレイできるとおもしろいのではないかと思います。</li> <li>・ 事前の希望性をとってみるのも如何かと思います。</li> <li>・ どのように進めていけば良いのかわからないまま終わってしまった気がしました。ベテランの方々のワークの進め方を見たいと思いました。</li> <li>・ 経験年数が近い先生と一緒にだったので、意見交換を活発にできてよい刺激となりました。</li> <li>・ 色々と考えさせて頂きました。まだまだたくさんの事を吸収したいと思います。</li> <li>・ 発表後に大型弱視鏡のグループと検影法のグループにわかれて話し合った内容は、わかれずに全員一緒でも良かったのではないかと思います。</li> <li>・ 初めてだったので、時間配分を教えてほしかった。25 日のグループワークの時間が短かった。</li> <li>・ とても勉強になりました。他施設のことや実際の現状を聞くことができ、良かったです。</li> <li>・ 昨年の教員研修の報告書が各班ごとに準備されていたら良いのでは</li> </ul> |

|             |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループワークについて | 意見・要望          | <p>とを考えます。特に若手グループでは、初めて参加される方も多く、教案にしろ、発表パワーポイントにしろ、どのようにまとめればいいのか参考になるものがあった方が良くかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンはできるだけ多く準備して頂きたい。</li> <li>・ 自分の学校だけでなく、各学校の意見や現状のディスカッションが最後にできて良かった。</li> <li>・ ディスカッションの時間が少ないように感じました。話題の提供も自由度が高すぎて、導入は難しかったように感じます。</li> <li>・ 参加者はコマシラバスをあらかじめ作成してもらうのはいかがでしょうか？</li> <li>・ ゆっくりと話し合いができて発表や質疑応答も楽しく勉強になりました。</li> <li>・ 日本各地より色々な先生方がいらっしゃったこと、さらに意見を色々と聞くことができたのでとても面白い体験ができました。</li> <li>・ 検影法と大型弱視鏡は、学生にとっても理解がむずかしい実習なので、今回のテーマにして頂き、勉強になりました。</li> </ul> |
|             | 今後取り上げてほしいテーマ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もうしばらくコマシラバス作成で良いと思います。</li> <li>・ 調節検査</li> <li>・ 色覚検査</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 研修会運営について   | 開催日の設定         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ よいがもう少し暑さのおさまった時期だとより良いと思います。</li> <li>・ ゆっくりしているのがよい。土日でないのがよい。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|             | 事前・直前アナウンスについて | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかりやすく誘導していただき安心して研修に参加することが出来ました。ありがとうございます。</li> <li>・ 今回の方法、タイミングで良かったと思います。</li> <li>・ 初めての参加でしたので何を準備したらよいかわからず（すみません。何も聞きもせず。）全くゼロで出席してしまいました。研修テーマもしっかり考えていませんでした。</li> <li>・ 開催前にテーマが分かれば準備ができると思いますが、事前に公表（連絡）することは可能でしょうか？</li> <li>・ コマシラバス作成のどのグループにはいるかが事前にわかっていると準備がしやすいのかなと感じました。もう少し時間的余裕があるほうがよいかも。</li> <li>・ よい。</li> </ul>                                                                                                                                      |
|             | その他            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 細かく色々準備をしてくださいますとありがとうございます。</li> <li>・ コンタクトレンズではなく、何か新機種のランチョンセミナーを希望します。</li> <li>・ 参加者および班分けの名簿も配布していただければと思います。</li> <li>・ ランチョンセミナーは来年以降も是非続けてください。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|               |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研修会運営<br>について | その他 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 駅から開催地である大阪医療福祉専門学校まで少し迷ってしまいました。ポイント地点（駅構内など）に看板などあったら良かったと思います。</li><li>・ 大阪は来やすいので会場は関西圏の方がありがたい。</li><li>・ もう少し、時間を長くとっても良いと思います。</li><li>・ お忙しい中、準備運営ありがとうございます。</li><li>・ 感謝しています。ありがとうございました。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 研修会全体について     |     | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 今後も研修会を続けていただき、各校の連携や情報交換が出来ればと思います。</li><li>・ 時間的余裕がもう少しあれば、嬉しく思います。</li><li>・ 内容も充実していてとても参考になりました。また、要所要所で配慮くださりありがとうございました。</li><li>・ スケジュールがハードすぎだと感じます。1日目の終了時間がもう少し早いと助かります。</li><li>・ 毎回参加できない学校があるように思いますので、一度このようなアンケートに参加していない学校でもとってみたいかがでしょうか？参加して気付かれることもたくさんあると感じますので、多くの学校の先生方に参加していただくように。</li><li>・ 全国の学校の現状や、指導方法について多くのお話を聞けて大変参考になりました。後期に活かしていきたいと思います。</li><li>・ 先生方の意見とても勉強になりました。実際に各先生方の講義を受け学んでみたいです。</li><li>・ 色々な意見を聞けることはとても良いと思うので、こういう機会は多くとった方が良いと思う。</li><li>・ 大変満足です。ありがとうございました。次回出席することが出来ましたら、しっかり勉強してきます。</li><li>・ 若い先生方のご参加が増えてきているように感じ、好ましく思いました。本研修が学生教育に反映され先生方の経験となり、さらには先生方の教育歴のポイント（例：専任教員等）につながるように考えていく必要があるのではと思います。</li><li>・ やや時間がおすことがありましたが、全体として余裕があり、よい流れでした。教育講演のみにしぼるのもありかなと思います。</li><li>・ 色々な意見が聞けたり、他校の先生とお話ができてよかったです。今回の教育講演のように心や人間性という点からのお話を今後も聞かせていただきたいです。</li><li>・ 授業案作成にともない、事前に各養成校の実施状況をあらかじめ収集し、活用してはどうか？</li><li>・ 参加人数はこの位の人数が良いと感じました。多すぎず、少なすぎず、意見の交換が行いやすいと思った。</li></ul> |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研修会全体について</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会場を提供して頂いた大阪医療福祉専門学校の先生方に感謝します。また、若い教育の参加に驚きとともに期待を感じました。ただ、臨床経験が少ない状態で教育になる方が多いのかなと感じました。そのため臨床経験の多い方、あるいは現在臨床の場で後進の指導をされている方々のご意見を伺えたら教育現場の者にとってプラスになるのかなと思いました。</li> <li>・ 運営担当される先生方は、大変だと思いますが、年一回の研修ですので、時間を長くしても良いと思います。</li> <li>・ 少ないスタッフで準備運営とても大変だったと思います。おつかれ様でした。場所もとても良いのですが、段々規模が大きくなって、実施できる施設が限られているのではとの不安もあります。賛助会員によるセミナーや器械展示も常にできるかとの不安もあります。</li> <li>・ 大阪医療福祉専門学校の先生方、本当に色々な準備ありがとうございました。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>感 想</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育経験の豊富な先生方の教育現場についてのお話を伺い、実際の指導に取り入れたいと思うものがたくさんありました。</li> <li>・ 授業をこれからしていくにあたり、学んだことばかりでした。ありがとうございました。</li> <li>・ 今回、初めて参加させていただきましたが、意見交換も活発で各先生方の真剣な取り組みが伺うことが出来、私自身、これからさらに気を引きしめて仕事に取り組もうと決意もあらたに致しました。</li> <li>・ 各々の学校や先生の考え方や講義方法、小テストやノートなどについて多岐に渡ってお話を聞くことができ、非常に勉強になりました。ありがとうございました。</li> <li>・ ありがとうございました。今年は、一参加者として楽しく参加させて頂きました。</li> <li>・ 不安だらけの研修会でしたが、グループワークも班の方々に支えられ、あまり発言することも出来ませんでしたが、次回参加する際には、今年の経験を活かし積極的に参加していきたいと思います。</li> <li>・ シラバス作成など、基礎から分かってとても良かったです。自分の考えがまだまだ浅いことを再認識しました。これから、教えていただいたことを基に努力していきたいです。</li> <li>・ とても勉強になりました。ありがとうございました。</li> <li>・ 予想していたよりも意見を言いやすい雰囲気良かったです。</li> <li>・ まだまだ知らない事が多すぎて、困ってしまった。また機会があれば参加したいと思う。</li> <li>・ 教員になってまだ1カ月足らずの者がこの中に入って大丈夫かと不安であったが、いろいろな意見や発表を聞き、授業や実習に実際に取り入れていきたいと思う。</li> </ul> |

感想

- ・ いろいろな先生方に会えてとっても力になりました。
- ・ 最初、かなりタイトな日程だと思いましたがあっという間でした。今後研修会で学んだことを学生にフィードバックできるように努力していきます。
- ・ 会長、事務局長さんのご尽力により、例年通り実りある教員研修になりました。ありがとうございました。研修会、懇親会共に内容が種々工夫されて、大変有意義な時間を過ごすことができました。感謝申し上げます。交通の便も大変よく、内容の濃い研修でした。来年も是非参加させていただきたいと思います。
- ・ 研修会がとても良い雰囲気の中で行われ参加させて頂いて勉強にもなりましたし他校の先生方ともお話しさせて頂く事ができました。ありがとうございました。
- ・ 新しい発見、考え方を知ることができ、大変参考になりました。今後の授業、実習を組み立てる際に参考にさせていただきたく思います。
- ・ 毎回勉強させていただいています。今回も学校にもち帰り、今後の授業の参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 楽しくたくさんのかことを学ぶことができ良かったです。いろいろな先生方の意見がもっと聞けると良かったと思います。
- ・ ORTとしても、教員としても新人の私にとって、最初はとても不安でした。しかし、たくさんのか人の意見が聞けて今まで知らなかったこと、気づかなかったことがたくさんあり、とても勉強になりました。今までは学生の立場でしたが、指導者の方達は色々考えて授業をしてくださっていると改めて気づき、これからは教員として学生にとって一番良い方法で実習ができるよう考え直していこうと思います。参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。
- ・ いつもここに参加させていただき、事前準備がきちんとなされている事に本当に感謝致しております。今回も分からないことが自由にしかも気楽に伺えることが出来うれしく思っております。ありがとうございました。
- ・ 今回で2回目の参加です。昨年は、教員歴数カ月での参加で、まだ実習指導にもほとんど関わっていなかったため意見を聞いているだけという感じでしたが、2年目になり、実際に学生の実習指導を行い、指導方針を考えるようになった今回は、先輩方の意見も指導する側として聞けたので大変勉強になりました。今後の実習指導に是非参考にさせていただきます。
- ・ 各校の情報交換の機会を増やして欲しい。
- ・ この度の会の開催に感謝致します。ORTに関する研修以外にこの様

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>感 想</p> | <p>な教育に関する必要性を特に感じております。ありがとうございました。そしてお疲れ様でございました。またお会いできます日を楽しみにしております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の研修を振り返ると、自分がいかに未熟かがよくわかりました。今回、学んだことをこれからの教育にいかしていきたいと思います。ありがとうございました。</li> <li>・ 色々な養成施設の状況もわかり、また、知らない間に自分の考えが<br/>かたよっているのかなということを改めて自覚させて頂きました。<br/>また機会があれば、参加したいと思っています。ありがとうございました。</li> <li>・ 今回も新たな知識を得ることができました。ありがとうございました。</li> <li>・ 大阪のアットホームなふんいきをたんのういたしました。赤松先生<br/>をはじめ、関係者の皆様に心から感謝いたします。本当にありがとうございました。</li> <li>・ 久々の参加で若い教員の方が多くなったことと男性教員も増えたと思<br/>いました。また、確実に時代が変わっていると感じました。色々<br/>と勉強させていただきました。ありがとうございました。たいへん<br/>お世話になりました。</li> </ul> |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# アンケート単純集計

|                            | 設問                  | 回答                |            |                     |                    |          | 合計数 |
|----------------------------|---------------------|-------------------|------------|---------------------|--------------------|----------|-----|
| 教員研修全体の<br>プログラム構成に<br>ついて | 教育講演                | あった方が<br>よい<br>29 | 不要である<br>0 | どちらとも<br>いえない<br>3  | 無回答<br>1           |          | 33  |
|                            | グループワーク             | あった方が<br>よい<br>32 | 不要である<br>0 | どちらとも<br>いえない<br>1  |                    |          | 33  |
|                            | 賛助会員に<br>よる<br>セミナー | あった方が<br>よい<br>23 | 不要である<br>0 | どちらとも<br>いえない<br>7  | 無回答<br>3           |          | 33  |
|                            | 器械展示                | あった方が<br>よい<br>19 | 不要である<br>1 | どちらとも<br>いえない<br>13 |                    |          | 33  |
| グループワークに<br>ついて            | テーマは<br>よかったか       | よい<br>28          | よくない       | どちらとも<br>いえない<br>5  |                    |          | 33  |
|                            | 時間配分は<br>適切だった<br>か | 適切である<br>20       | 長い<br>1    | 短い<br>9             | どちらとも<br>いえない<br>3 |          | 33  |
|                            | 個々の<br>発表時間         | 適切である<br>30       | 長い<br>1    | 短い<br>1             | どちらとも<br>いえない<br>1 |          | 33  |
|                            | グループ人数              | 多い<br>0           | 少ない<br>1   | どちらとも<br>いえない<br>25 | 適切・良い<br>6         | 無回答<br>1 | 33  |
| 研修会の<br>運営について             | 開催日の<br>設定          | よい<br>28          | よくない<br>1  | どちらとも<br>いえない<br>4  |                    |          | 33  |
|                            | 全体のタイム<br>スケジュール    | よい<br>28          | よくない<br>1  | どちらとも<br>いえない<br>4  |                    |          | 33  |
| 教育活動の<br>参考になったか           |                     | なった<br>33         | ならない<br>0  | どちらとも<br>いえない<br>0  |                    |          | 33  |
| また参加したいと<br>思うか            |                     | 思う<br>33          | 思わない<br>0  | どちらとも<br>いえない<br>0  |                    |          | 33  |

## 会長総評

第4回目となる、全国視能訓練士学校協会教員研修会は、皆様のご支援とご協力をいただき、盛会のうちに無事終了することができました。過去3回の教員研修会と同様に全国から16校、35名が参加されました。まず、大阪医療福祉専門学校顧問の湖崎克先生より、開会のご挨拶をいただきました。1971年の視能訓練士法制定に携われ、「視能訓練士の兄」として暖かく視能訓練士を見守っていただいている湖崎先生から激励のお言葉をいただき研修にのぞむ雰囲気が盛り上がりました。次に岩堀美雪先生による「パーソナルポートフォリオを使った実践を通して」と題してワークもとりのれた教育講演をしていただきました。本来ならば、1日を通しての内容のところを、3時間に凝縮していただき、大変貴重なご講演を賜りました。岩堀先生は福井で現役の小学校の先生をされていらっしゃいます。「自分を好きになれば、友達も好きになる。教師になって20年以上が過ぎましたが、子供たちは誰でも素晴らしい可能性をもっている。いいところのない子は一人もいないということを、子供たちから学びました。そして、その教え子たちにはずっと自分のことを好きでいてほしい。そして、まっすぐに育ってほしい、と心から願ってきました。そんなとき、パーソナルポートフォリオに出会いました。「ポートフォリオ」というのは、もともとは「紙ばさみ」という意味ですが、教育業界でいう『パーソナルポートフォリオ』というのは、自分の中のプラスを探し、それに関するさまざまなものをファイルしていくことをいいます。たとえば、友達からの手紙や思い出の写真、がんばったスポーツのことなどをクリアファイルに入れていくのです。自分のことを肯定できた子は、相手のことも肯定できるようになるのです。」というご講演内容でした。NHK製作による岩堀先生のクラスを撮影した番組を拝見し、子供たちの成長していく姿を見せていただきました。ワークでは、クリアファイルを利用し「自分のことを大好きになろう、家族や友達のことも大好きになろう」という言葉をまず書きます。それから自分の希望や、自分のいいところを書いていきます。グループディスカッションで自分のよいところを発言しあい、最後にお互いにより印象を書きあうというもので締めくくられました。大人であっても褒められれば嬉しくなります。私たちが接している学生達に対し駄目なところばかりを指摘していないだろうか、きちんと良いところを褒めているだろうかと改めて考えさせていただくことができました。視能訓練士教育はまず人間教育であることという原点に立ち戻らせていただくことのできたご講演でした。

次にコマシラバス作成研修をおこないました。検影法（初回講義）大型弱視鏡（初回実習）のコマシラバスをグループごとに作成し、研修初日が終了しました。その後の懇親会では本当に楽しい時間を過ごすことができました。

翌日はグループワークの報告とディスカッションでしたがご経験豊かな先生方がうまくまとめてくださり、どのグループも熱い意見交換が行われました。

今回の教員研修においても、昨年に引き続き賛助会員様に大変お世話になりました。ランチョンセミナーではクーパービジョン様に「コンタクトレンズの基礎講座」をおこなっていただきました。大変分かりやすく説明をしていただき、また資料も分かりやすいものを作成していただき、勉強になりました。

JFC様、HOYA様、TMI様には器械展示をしていただき、充実した研修会となりました。

前会長新井田先生のご尽力で全国視能訓練士学校協会は飛躍的に発展をとげることができました。

「日本視能訓練士養成施設連絡協議会」から「全国視能訓練士学校協会」に名称変更し、教員研修、実習ガイドライン、広報のワーキンググループを充実し、実績を積んでいただきました。今後はハード面の整備、例えば全国視能訓練士学校協会の事務局が 2 年ごとに変更することなどの問題の解決がこれからの課題と考えております。現在の懸案事項である「専任教員認定制度」ですが、全国視能訓練士学校教会へ視能訓練士協会から移譲となる件についても、ハード面の整備が必要かと考えます。加盟校の皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

少子高齢化問題、経済不安など日本をとりまく状況は決して明るくはありません。しかし、私たち視能訓練士養成校教員は「明日の日本を背負う社会に必要とされる人材育成」というすばらしい仕事をしています。

加盟校の皆様と協議を重ねながら、全国視能訓練士学校協会の発展に努めていく所存でございます。本年度の教員研修内容の一つである、「レチノスコープ初回講義の教案作り」のために近畿弱視斜視研究会でご製作された、「レチノスコープ 初心者の為の実習マニュアル」の参加者への配布をご許可いただきました、内海隆先生ならびに近畿弱視斜視研究会の先生方に心より御礼を申し上げます。最後になりましたが、教員研修会の開催準備から報告書の作成に至るまで、企画運営をしていただきました、教員研修ワーキンググループの諸先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

全国視能訓練士学校協会

会長 赤松滋子

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

## 編集後記

3回までは同形態でやってみようと過去3回は同じ形態を踏襲し行ってきました。

そして、4回目である今回。アンケートの結果も踏まえWGメンバーで検討し、教育者としての資質を高めていくために、教育講演とコマシラバス作成という今までと同じ形態で、企画をしました。

岩堀先生にお願いをしたパーソナルポートフォリオは自己肯定感を育成する方法として注目を集めているものです。企画を考えた段階では『専門学校にでもパーソナルポートフォリオは活かしていけるのだろうか』という不安もありましたが、講演を拝聴し、実際にパーソナルポートフォリオを作成することで、自己肯定感には年齢は関係ないということを実感しました。企業からの講演依頼もあるとお聞きしました。まず、私たち教員が自己肯定感をもつことで、学生により良い教育が可能となり、学生は勉学や実習に自信を持って取り組むことができる。そして将来、やる気と向上心を持って仕事に取り組む視能訓練士が増えていくのではと、期待いたしています。

グループワークは、過去に参加している教員も多くなってきたことで、コマシラバス作成もスムーズに進んだのではないのでしょうか。皆様の最終ディスカッションは、発表の時間が押したこともあり十分取れなかったことを申し訳なく思います。テーマを事前に知らせて欲しいという意見が毎回ございますが、班構成が直前まで変わることがあるため、難しい状況です。ご理解いただけたらと思います。

賛助会員によるセミナーでは、前回に引き続きコンタクトレンズについての講演となりました。そこで、今回は、私たちもあまり知らない法律についても内容に入れていただきました。今回の教員研修会を通して、今後の視能訓練士教育において少しでもお役に立てることがあったのであれば有り難いと思っております。

この教員研修会も第4回を終了し、日本視能訓練士協会の単位認定事業に認めてもらうべく申請をする予定となっておりましたが、専任教員制度について見直しがありそうです。どのようなシステムになるのかは現在のところ未定ではありますが、教員研修会としては、視能訓練士である教員はもちろん、視能訓練士ではない専任教員、また教員希望の視能訓練士などの参加も視野に入れることも必要ではないかと考えております。次回の教員研修会をさらに充実したものにできるよう努力いたしますので、今後ともご協力下さいますようお願い申し上げます。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

全国視能訓練士学校協会 加盟校一覧

|    | 施設名             | 学科名                             | 所在地      |
|----|-----------------|---------------------------------|----------|
| 1  | 吉田学園 医療歯科専門学校   | 視能訓練学科                          | 北海道札幌市   |
| 2  | 北海道ハイテクノロジー専門学校 | 視能訓練士学科                         | 北海道恵庭市   |
| 3  | 東北文化学園専門学校      | 視能訓練士科                          | 宮城県仙台市   |
| 4  | 東北文化学園大学        | 医療福祉学部リハビリテーション学科<br>視覚機能学専攻    | 宮城県仙台市   |
| 5  | 仙台医健専門学校        | 視能訓練科                           | 宮城県仙台市   |
| 6  | 新潟医療技術専門学校      | 視能訓練士科                          | 新潟県新潟市   |
| 7  | 国際医療福祉大学        | 保健医療学部視機能療法学科                   | 栃木県大田原市  |
| 8  | 専門学校日本医科学大学校    | 視能訓練士科                          | 埼玉県越谷市   |
| 9  | 帝京大学            | 医療技術学部視能矯正学科                    | 東京都板橋区   |
| 10 | 東京医薬専門学校        | 視能訓練士科                          | 東京都江戸川区  |
| 11 | 首都医校            | 視能療法学科                          | 東京都新宿区   |
| 12 | 北里大学            | 医療衛生学部リハビリテーション学科<br>視覚機能療法学科専攻 | 神奈川県相模原市 |
| 13 | 平成医療専門学院        | 視能訓練学科                          | 岐阜県岐阜市   |
| 14 | 東海医療科学専門学校      | 視能訓練科                           | 愛知県名古屋市  |
| 15 | 愛知淑徳大学          | 医療福祉学部医療貢献学科<br>視覚科学専攻          | 愛知県名古屋市  |
| 16 | 名古屋医専           | 視能療法学科                          | 愛知県名古屋市  |
| 17 | 洛和会京都厚生学校       | 視能訓練士学科                         | 京都府京都市   |
| 18 | 大阪医専            | 視能療法学科                          | 大阪府大阪市   |
| 19 | 大阪医療福祉専門学校      | 視能訓練士学科                         | 大阪府大阪市   |
| 20 | 神戸総合医療専門学校      | 視能訓練士科                          | 兵庫県神戸市   |
| 21 | 川崎医療福祉大学        | 医療技術学部感覚矯正学科<br>視能矯正専攻          | 岡山県倉敷市   |
| 22 | 松江総合医療専門学校      | 視能訓練士科                          | 島根県松江市   |
| 23 | 福岡国際医療福祉学院      | 視機能療法学科                         | 福岡県福岡市   |
| 24 | 大分視能訓練士専門学校     | 視能訓練士科                          | 大分県大分市   |
| 25 | 西日本教育医療専門学校     | 視能訓練士学科                         | 熊本県熊本市   |
| 26 | 九州保健福祉大学        | 保健科学部視機能療法学                     | 宮崎県延岡市   |

平成 23 年度  
教員研修会報告書

平成 24 年 3 月 31 日発行

発行 全国視能訓練士学校協会

平成 23 年度事務局 大阪医療福祉専門学校  
〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 1-2-14

〈 許可無く複写転載を禁ず 〉